

光といのち

第86号

2014年1月1日発行

発行所

真宗大谷派勝善寺

〒299-2214

千葉県南房総市二部1344

電話 0470-57-2657

FAX 0470-57-2290

Eメールino-teyy@khaki.plala.or.jp

謹賀新年

本年も、お念仏申す生活を共に歩んでまいりましょう。よろしくお願ひいたします。

修正会を左記により行います。

す。お参りください。

記

1月2日 10時～11時30分

千葉組 宗祖親鸞聖人 七百五十回御遠忌法要

ぜひ大勢の方に参加していただきたく考えています。50年に一度の御遠忌法要ですから。下記により行いますので、参加を希望する方は、1月31日までにお申し出ください。

いのち
出会う
連なる

千葉組

記

一日時 5月17日 土
13時～16時

一場所 千葉市市民会館

一費用 御懇志と交通費

2010年から千葉組 真宗大谷派22カ寺で教化テーマとして題字下の言葉「いのち 出会う 連なる」を掲げています。このテーマは、私たち真宗門徒の生きる姿を表しています。御遠忌法要に向けて、皆様とこの意味を確かめていきたいと考えます。

なお、参加者全員で「正信偈」のお勤めをしますので、練習を寺で行います。詳細は、参加申込者に改めて連絡いたします。

真宗門徒の生活実践

念仏申す生活を

礼拝 あいはいの生活

毎日欠かさずご本尊に對面し、お内仏のお莊嚴を整え、お給仕を正しくしよう。

正信偈をおつとめし、教えの言葉に触れよう。

新しく家庭をもったら、必ずご本尊をお迎えしよう。

聞法 むんぼうの生活

念仏の教えを聞き、同朋を見いだそう。

月に一度は法座に参加しよう。報恩講をはじめ、お寺の行事に積極的に参加しよう。

正信 むようしんの生活

迷信に惑う私を解放しよう。念仏をよりどころとして生きる道を聞き開き、占いや靈信仰と訣別 けつべつ しよう。帰敬式を受け法名をいただき、真宗門徒として歩みはじめよう。

教化実践四項目

- 一 お内仏に正しいご本尊を安置し、お莊嚴を正しくしよう。
- 二 塔婆を建てることはやめよう。
- 三 位牌を廃し、法名軸に改めよう。
- 四 法名に信士・居士などの位号をつけるのはやめよう。

報恩講 11月16日



天候にも恵まれ、100人ほどのご門徒と、無事に報恩講をお勤めできました。

お世話人、当番地区の方々、同朋の会の方々、世話人総会から仏具磨き、前日準備、当日の準備、運営、片付けと、ご苦勞様でした。

なお、153人の方々から御懇志69万6千円や餅米、花等をいただきました。有り難うございました。残金29万9千387円は、仏具購入費に充てさせていただきます。

ご門徒の感話

推進員となつて

増田 征夫 釋(征道)

私の真宗との本格的な出会いは、5年間介護した妻とその後引き取った母の2人を見送った後でした。

死は死であつて死にあらず。阿弥陀様のもとへの新たな旅立ちである。」と以前から信じていました。が、喧嘩しながらでもそばに居た者が居ない空虚感に襲われ、暫くは何事もする気になれませんでした。

そんな折住職様から「同朋の会」へのお誘いが有り許す限り鎌倉から参加させていただきました。リーマンショックに東北震災による経済環境の変化で仕事も中止や延期になり、思い切つて鎌倉から岩井へ帰つて来ました。勝善寺さんも近くなり、同朋の会や親鸞教室へも出来る限り参加するようにしました。

今年早々「真宗入門講座」に



お誘いが有り、東京練馬の真宗会館での前期講座3日間

と京都東本願寺での後期講座3日間を無事終了することができました。最終日の前夜各班ごとに学んだ事をまとめ、翌朝、親鸞聖人の御真影前でそれを発表し、さらに帰敬式を受け法名「釋征道」を御門首からいただきました。そして宗務総長から「今日から推進員とされました。」と認証されました。

推進員は、住職と共に親鸞聖人の教えを広める手助けを心がける役目だと思つていきます。それは、まず自分が勝善寺の同朋の会などの活動に積極的に参加し、聞法生活をしていくことだと考えます。聞法会などという何か堅苦しい感じがしますが、そうではありません。多くの方が気軽に参加して頂けるよう努力しますのでよろしく願ひします。

つたない話をお聞きいただき有り難うございました。

浄土真宗でよかった

関口 昌司 釋(志勇)

ご先祖の墓がここにはない私が勝善寺とのご縁を頂いたのは、今は亡き推進員の大先輩、検儀



谷の川名琢磨さんとの出会いからでした。

奥様のご葬

儀が自宅で営まれ、先代ご住職のお正信偈に惹かれ、四季折々に勝善寺を訪ねるようになりました。晩秋の大イチョウの黄葉と紅が鮮烈なもみじ、春は新緑が美しく季節の変化を静かな境内で楽しんでみると、先代の坊主さんから声をかけられ、彼岸会へのお誘いを受けてから今日に至つております。ちなみに20代の頃、北鎌倉や鎌倉の有名、無名のたくさん寺院に頻繁に通いました。が、このようなことは一度もありませんでした。

勝善寺本堂の輝く内陣の莊嚴と、美しくやさしい阿弥陀如来像に惹かれながら、ご住職、副住職またお子さんお二人も大きな声で正信偈をお勤めする姿は、驚きとともに震える感動があり、この光景は忘れることがありません。

そのころ子育て中のわが身にとつて何よりの良い刺激となり、その日二人の子供と妻に見たと

おり話し聞かせて、私は真宗門徒となる心が定まりました。

歎異抄との出会いは中学二年(14歳)の教室です。第3章の

善人なおもて往生をとぐ、いわんや悪人をや。この言葉の意味を巡つて、教室内から次々活発に意見が出て、しばらく先生が口を差し挟めず黙つて成り行きを見守つて、意見が出尽くすのをじつと待つていたことがなつかしく思い出されます。

あれから50年、三ヶ月後には高齢者に分類される65歳になります。昨年、高齢の母親と二人暮らしの2歳上の独身の友人が、母の死亡届を出したら館山市職員から独居老人扱いされてショックだった」と憤慨しておりましたが、ブツダの教え生老病死をまだ聴く機会を持つていないのかもしれない。

わたしたちの浄土真宗にはいつまで生きても退屈しない人生がある」と聞いておりますが、その通りの人生を生きられたのではないかと思うお二人が最近亡くなられました。

享年94歳のやなせたかしさん

は長い間生まれ生きてきた意味を自身に問いかけ、闇夜の迷路をさまよったと述懐し、児童向け漫画・アンパンマンが大ヒットし70年代で大きく開花した遅咲きのお一人ですが、それからの人生は、いつまで生きても退屈しない「日々を実践し、大生はよろこばせごっこがいい」という言葉を残す充実振りでした。

島倉千代子さんは先ごろ75歳で亡くなられましたが、いつも周囲にやさしく配慮してこられ、告別式でたくさんの人が本当の悲しみの涙を流した人生は、菩薩の境地であったように思われます。人がこの世で生きる苦しみの中で体験し、幼少の頃の輸血からC型肝炎を告げられ、いつも死から目をそらさずに大衆とともに歌に生き、死後のことも怠りなく整理して、いつ死んでも後悔しない人生」を完全燃焼させた一生のように思います。

親鸞聖人の生き方と念仏の教えに日々出会い、抛りどころのある喜びを深く感じながら新しい事業に取り組み始め、後悔も退屈もない人生を今歩んでいます。

法話 (聞き書き)

寺は聞法道場

恵光寺勝尾浩正 釋法喜

ここ勝善寺は、古くからある寺で皆さんも代々のお檀家ですね。ですからこのような本堂があるのが寺院であると思っていられしやるでしょう。ところが私の寺は違います。常磐線北松戸駅近くの街中にありますが、一見寺であるとはわかりません。鉄筋コンクリートのアパートの二階が寺であるからです。電話で場所を詳しく教えても、なかなか見つけて来られないことが多いです。

実は、私の父は寺の出身ではありません。東京に出てきて普通の仕事をしながら聞法を続け僧侶となり、寺(聞法道場)を開いた人です。ですから報恩講や毎月のお檀家会に集まる人々は、代々のお檀家ではありません。住職や私との関係で聞法するようになった方々です。

私も父と同じように若い時代は普通の仕事をしていました。僧侶になどなるつもりはありません。



ある時に父にだまされて東京練馬の真宗会館の研修会

に参加するはめになり、それが御縁となり僧侶の道を歩み始めました。

僧侶になったと言っても、特別な者になったという決断してありません。むしろそうではない自分であることが、聞法することではっきりしてきました。ですから法衣(ころも)を着ていると「先生」と呼ばれることがあります。そう呼ばれることは好きではありません。

しかし、葬式や法事でお経をお勤めし「先生」などと呼ばれ、お布施をいただいていると、世間一般の感覚が麻痺してくるようにも感じていきます。

今、東京近辺では葬式や法事を今までの慣習通りにしない人も多くなってきました。いろいろな事情があるのでしようが、僧侶が本来なすべきことをしてこなかったこともその一因であるように思われます。

檀家制度は都市部ではもう完全に崩壊し、祖霊信仰も核家族化が一般化した現代社会では過去のものになりつつあるようです。そのような中で寺や僧侶がどうあるべきかが、今、厳しく問われています。

真宗寺院の本来の姿は聞法道

浄眞寺報恩講参詣

勝善寺の報恩講には7カ寺から僧侶が出仕してください。私が、私もそれらの寺の報恩講に出仕させていただいています。

十二月一日(日)柏市にある浄眞寺報恩講に、川名喜昭氏・増田征夫氏・山辺辰雄氏に同行していただきました。僧侶は、住職前田義朗(釋了義)師です。

報恩講は、宗祖親鸞聖人に報恩謝徳する法要ですが、各寺々の歴史や実情に応じ、日程やお勤めの次第は様々です。同行の諸氏は浄眞寺報恩講に刺激を受



け、帰りの車中では報恩講の話しに花が咲きました。本年も他寺院の報恩講参詣を企画します。ご参加ください。

報恩講を支えた方々

世話人総会で決めた役割分担をもとに、お名前を敬称を略しアイウエオ順でお載せしました。ご苦勞様でした。

眞鍮製仏具磨き

- 青木 實 石井和夫 大胡登美子
- 大胡睦恵 川名登支江 川名信之
- 川名喜昭 桜井朋子 重田澄子
- 田中昭一 谷 英郎 田村晋一
- 富澤眞知子 鱸居政男 中川克子
- 中山郁夫 西山三保子 増田征夫
- 山辺辰雄 吉田 誠 吉本しづ子



前日の準備を終え、この後遠夜法要を勤めました。

自分の磨いた眞鍮製仏具を手を持ち並びました。

お斎係

- 前日 青木知子 青木美由紀
- 当日 足達憲子 足達初枝
- 高梨千恵 堀海栄子

前日準備

- 明石圭司 明石義久 狩野平造
- 川名喜昭 久保田みさ子
- 田中昭一 谷 英郎 田村晋一
- 能重初雄 能重輝彦 増田征夫
- 当日役割
- 司会進行 足達 崇
- 受付・誘導係



- 大胡登美子 大胡睦恵 金木美江
- 川名登志江 田中昭一 吉田 誠
- 御懇志係 朝倉和利 田村晋一
- 幕張・駐車場係
- 狩野平造 久保田勇 高梨維夫
- 田村徹夫 富永昇一
- 能重輝彦 能重初雄
- 廣嶋敏雄 吉本行男
- 参拝者搬送 重田和夫
- 椅子机搬送
- 青木 實 川名喜昭
- 明石圭司 明石義久
- 能重初雄
- 写真撮影 関口昌司
- 慰労会進行役 吉田 誠



月曜日のお朝事



月曜日の朝7時から「正信偈」のお勤めを練習しています。その後「お文」を拝読し住職の三分法話があります。20分程度の時間です。ご一緒にお勤めの練習をしませんか。

同朋の会



ご門徒が運営する聞法会です。法話は住職がさせていただきます。法話の要のな月日に実施しています。どうぞご参加ください。

境内山林の整備



山の崩落を防止し景観を回復しようと荒れた周囲の山林整備をしています。写真は、伐採の上の伝説の岩「飛び石」です。

行事予定

- 1月2日10時〜 修正会
 - 1月8日9時〜 八日講十日講
 - 1月14日 親鸞教室③
 - 2月9日14時〜 同朋の会
 - 2月13日 親鸞教室④
 - 3月11日 親鸞教室⑤
 - 3月21日10時〜 春彼岸会
 - 4月6日13時30分〜 花まつり
 - 4月17日 親鸞教室⑥
 - 5月11日14時〜 同朋の会
 - 5月17日 千葉組宗祖親鸞聖人
 - 七百五十回御遠忌兼親鸞教室⑦
 - 6月1日14時〜 同朋の会
 - 6月8日9時〜 八日講十日講
 - 6月17日 親鸞教室⑧
 - 6月26日 婦人研修会②
 - 6月29日8時30分〜 奉仕作業
- ※・・・以外は当寺が会場です。